

2022年度 学校評価

NHK 学園高等学校 校長 等々力 健

NHK 学園高等学校のスクールミッションや事業計画、昨年度の学校評価で明らかになった課題を踏まえて、以下の4つの評価項目を定め、生徒、保護者、教員を対象に2023年1月から2月上旬にかけてインターネットでアンケートを実施しました。その結果を学校評価委員会に諮り、その指摘を踏まえて、次年度への課題と改善方をまとめました。

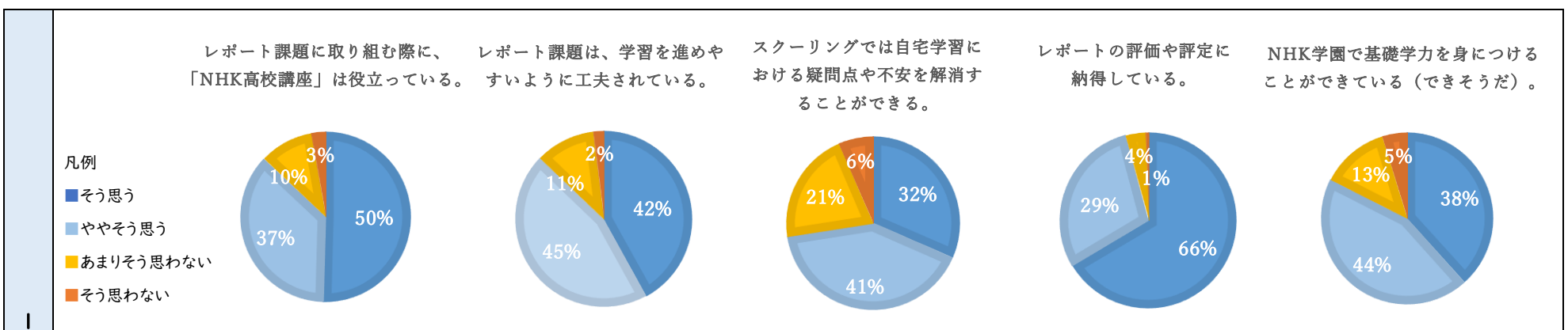
なお、達成度については、4つの評価項目ごとに、生徒アンケートで「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合の平均値をもって、評価しました。回答した生徒数が、在籍生徒の半数に満たない中ですが、数値でお示しできる一つの指標です。「次年度への課題と改善策」とあわせてお読みください。

「スクールミッション」

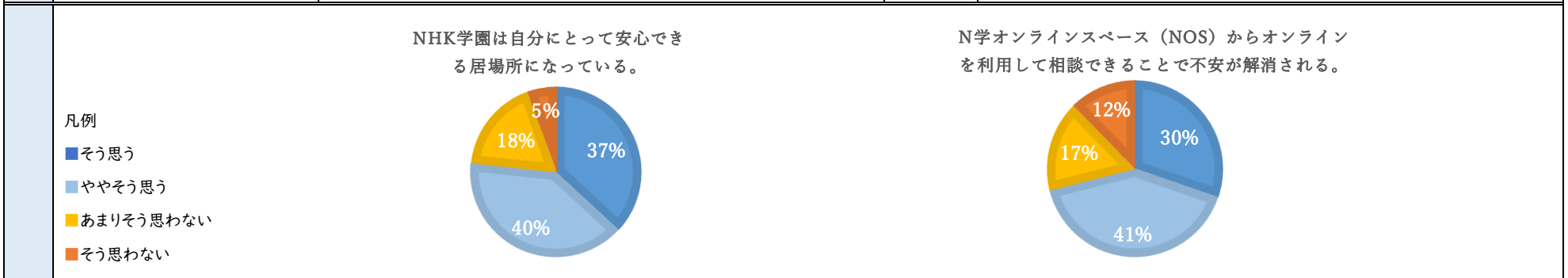
NHKと連携し、放送やインターネットなどの多様なメディアを利用することで、学ぶ意欲と高校卒業の意思を持つ人に、「いつでも、どこでも、だれにでも」学ぶ機会を提供し、自立して未来を生き抜くための基盤となる力を身につけていく学校

評価項目

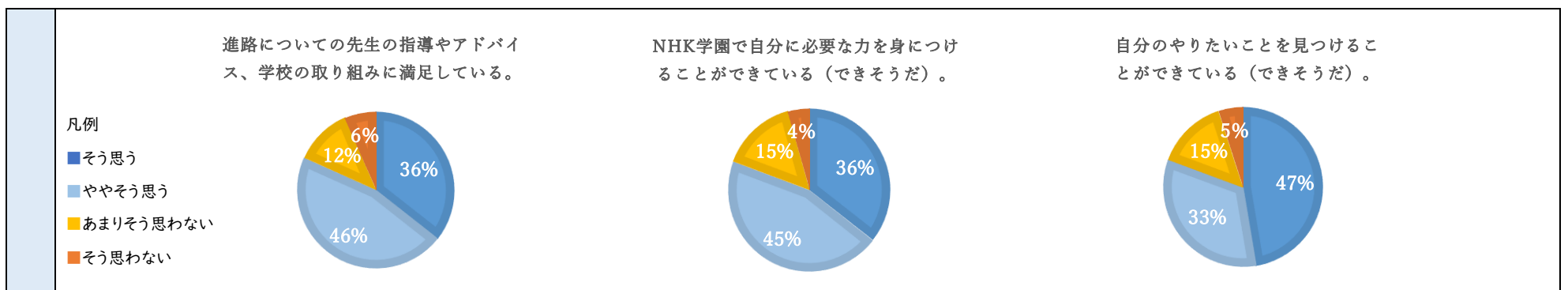
1	学習指導	「放送視聴」「レポート」「スクーリング」「試験」によって生徒の意欲的・自主的な学習を推進し、基礎学力向上を図る。	達成度 生徒アンケートの回答平均値 「そう思う」+「ややそう思う」 A：平均 80%以上 B：同 60%以上 C：同 40%以上 D：同 40%未満
2	生徒サポート	生徒一人ひとりが安心して学校生活を送れるようチームサポート体制の充実を図る。	
3	進路指導	生徒が各々の進路目標を実現できるよう進路指導体制の充実を図る。	
4	学校全般	高校生活において満足感と達成感が得られるよう学校全体でスクールミッションの実現に努める。	
回答数 生徒 1398人 (41%)			



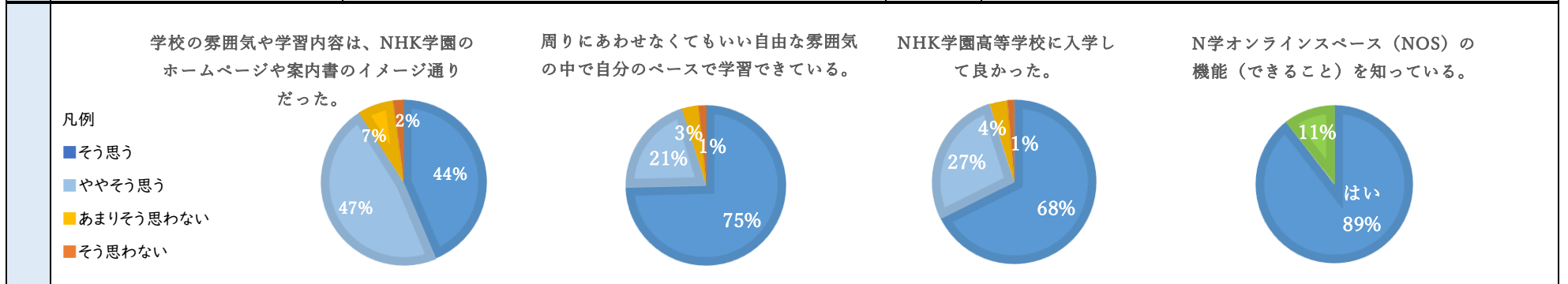
課題	具体的取組	達成度	次年度への課題と改善方策
学習指導 ・学力向上の施策として、レポート課題とNHK高校講座、それに東京本校教員が制作する「オンライン動画」などの補助教材を、ネット学習システム上で効果的に組み合わせた学習モデルを構築する。 ・自宅学習での疑問解消、グループでの学習活動等、面接指導（スクーリング）のあり方について検討する。 ・新教育課程科目の指導実践とその評価、検証を行う。	・新教育課程科目から、独自のネット学習システム「N学オンラインスペース」（NOS）上で、いつでも「NHK 高校講座」を視聴できるようにし、その場でチャットによる教員への質問もできるようにした。また、レポート課題を高校講座の放送にあわせて小さなユニットに分けて、学習をスモールステップで進めやすくした。さらに、生徒の自宅学習をサポートするため、ガイダンス、中間まとめ、後半のまとめの「オンライン動画」を教科ごとに制作・配信した。 ・東京本校で面接指導向上のための研修を実施し、教科・科目を横断して、指導方法を学びあい、改善に向けての意見交換を行った。 ・新教育課程の「観点別学習状況の評価」について、放送視聴、レポート、スクーリング、試験の4つの学習要素の評価と、評定への反映の基準を定め、多面的に生徒の学習成果を評価する手法の構築に取り組んだ。	A	・レポート課題や面接指導のあり方について、引き続き研究や研修に取り組むとともに、添削指導を受けた後の生徒が自ら復習に取り組むための支援も含め、トータルでの学習定着と学力向上の方法を検討する。 ・教員が制作する「オンライン動画」を質・量ともに充実させ、年間計画の中により適切に位置づけ、利用率の向上を図る。 ・「観点別学習状況の評価」の手法を検証し、2024年度の新教育課程完成年度以降の評価手法を確立する。 ・現在のネット学習システム（NOS）によるレポート学習等の効果を検証し、さらに学習しやすいものになるよう、2024年度運用開始の次期学習システムを開発する。



課題	具体的取組	達成度	次年度への課題と改善方策
生徒サポート ・担任、生徒指導部、スクールカウンセラー（SC）およびスクールソーシャルワーカー（SSW）等が課題を共有し、チームサポートを推進する。 ・複雑多様化する生徒・保護者のニーズに対応するために、協力校のSCを含めたチームサポート体制の強化を図る。	・担任一人ひとりのICT環境を整え、電話、メール、ビデオチャットを用いて生徒へ時間差なく対応できる体制をつくった。 ・全国のSCのICT環境を整え、Teams会議参加や情報共有がしやすい体制をつくった。 ・「一斉メール」の登録をさらに促進し、学校からの情報を適時に生徒・保護者に届けた。 ・NOS上でリアルタイム質問ができる機能を強化し、生徒が本校担任に相談しやすい環境を整えた。 ・東京本校で実施した「こころの相談医」による保護者向け講演会の録画を各地区統括部長及びSCと共有し、生徒理解の一助とした。 ・東京本校で実施した「いのちの授業」の録画をNOS上で協力校の生徒・保護者も視聴できるようにした。	B	・全国のSC・SSWが情報交換する場を設け、生徒・保護者の抱える課題を整理・共有して、生徒をサポートするネットワークを強化する ・特別活動の目標を「自立と交流」と定めて、対面とオンラインそれぞれで系統立てた指導を行う。外部の優良コンテンツも計画的に活用し、全国の生徒が交流できる機会を創出する。 ・とくに自分から意思疎通を図るのが苦手な生徒たちに対し、特別活動や総合探究の時間を通して、コミュニケーション力の伸長を図る。 ・東京本校のSC、SSW、養護教諭から発信する情報が、全国の保護者や生徒に確実に届くよう、情報発信方法を精査する。



	課題	具体的取組	達成度	次年度への課題と改善方策
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・進路関連の行事のオンライン実施を標準化する。 ・すべての生徒・保護者に対し、入学時から卒業時まで、進路関連の情報を継続的に届け、計画的に進路指導を行う。 ・進学や就職に限らず、生徒一人ひとりが自立に向けて自分にあった卒業後の居場所を見つけられるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進学や就職のための模擬面接を、オンラインでも実施し、生徒の利用促進および指導の充実を図った。 ・ハローワークと協議を重ね、就職ガイダンスのオンライン配信を実現した。 ・進路関連の情報を NOS で毎月継続的に発信し、特にオンラインイベントについては一斉メールによって周知を徹底した。 ・東京本校では、専門のキャリアコンサルタントを擁する NPO 法人や地域のボランティアの協力で、気楽に立ち寄って進路についての相談できる「カフェ」を定期的に設け、大学や専門学校への進学に留まらず、生徒が個性・特性に応じた進路選択ができるような相談、指導を展開した。一部は、オンラインでの相談も可能とした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への情報発信のあり方を整え、生徒、保護者、教員の三者面談の機会を増やすなど、三者が連携してより生徒にあった進路選択を実現する。 ・新たに適性試験など、客観性の高いデータも活用して、生徒一人ひとりにあった進路指導を実現する。 ・NPO 法人や大手予備校、地域のボランティアなどとの協力をさらに強化し、様々な角度から生徒のニーズを探り、適切な進路選択と進路実現につなげる。



	課題	具体的取組	達成度	次年度への課題と改善方策
4 学校全般	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が生徒の様子を知ることができるように、NOS 上での情報提供を増やす。 ・「スクールミッション」に掲げる教育理念を案内書や募集要項、ホームページに掲載し、発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉メールを活用し、生徒、保護者へ学校からの必要な情報を迅速に伝達した。 ・NOS の活用を進めるため、高校講座の視聴やレポート提出にとどまらず、先生への質問や、学習の進捗管理、学校からの連絡、生徒同士の交流など、便利で学びやすい機能があることを、入学前から丁寧に説明した。 ・教育理念を案内書等で紹介し、育てたい力やめざす姿をわかりやすく伝えた。特に登校コースでは、より適切にコース選択ができるよう、募集要項に求める生徒像を明示した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「基礎学力が身についた」、「相談相手がいる」、進路指導の何らかの取り組みに参加したと回答した生徒ほど、総合的な満足度が高く、今後も、学習指導、相談体制、進路指導の充実に一層力を入れていく。 ・NOS の機能を知っていると答えた生徒は、学習指導、生徒サポート、進路指導、学校全般のどの項目についても肯定的評価をする割合が高い。生徒全員が NOS を使いこなすことができるよう、学習方法の指導を徹底していく。 ・NOS が保護者にとっても、生徒の学習状況を確認し、学校からの有益な情報を得ることができるツールであることを周知徹底し、保護者の利用率を向上させる。 ・志願者の状況と選択したコースのミスマッチが生じないように、各コースの教育の具体的な内容や特色を、説明動画を充実させるなどして、よりわかりやすく伝える。

学校評価委員より 意見・要望・評価等

○NHK 学園が生徒にとって、学びの場、居場所、自己実現の場になっていることをあらためて認識できる結果である。

○学習サポートのための「オンライン動画」は、大変意義がある。とくに、年度初めに学習の仕方を示すことは有効な支援につながるため、活用率を上げる努力をしてほしい。また、NOSをはじめICTの活用については、教員側のスキルも計画的に向上させていくことが必要である。

○基礎学力が身についたことへの満足度は高いが、学力の定義は知識・技能のみならず、思考力・判断力・表現力、それに学びに向かう力も含まれる。協働的な学びをとおしてどのように学力を向上させるかがポイントとなり、「ネットホームルーム」や「スクーリング」のさらなる充実を期待したい。

○生徒同士の交流を望む生徒が少なく、交流の取り組みへの参加率も低い。一方で、「協働的な学習」は非常に大切で、生徒たちの背中を押していく取り組みを続けていく必要がある。

○これまで学校に通えなかった生徒たちが、NHK学園に入学して学校に通えるようになり、生徒や保護者の現状に対する満足度は高い。これは様々な取り組みの成果だ。次の課題として、生徒が卒業する際の、NHK 学園での指導やサポートが進路や将来につながったという満足度も高くなるよう、さらに取り組みを進めてほしい。

○「自分のやりたいことを見つけることができている」生徒が多いのはよいことだが、さらに、生徒たちが卒業したその先のステップとして「なりたい自分に」なれる学校をめざしてほしい。

○協力校ごとの結果を丁寧に分析し、地方で学ぶ一人ひとりの生徒の声をしっかり受け止めて、協力校の環境整備を進めてほしい。

○アンケートの回収率は、せめて半数以上になるよう、引き続き努力する必要がある。

<2022年度 学校評価委員会 委員（敬称略）>

市川 晃司：国立市教育委員会 教育指導支援課長

山登 敬之：明治大学子どものこころクリニック 院長

小宮山 英明：全国高等学校通信制教育研究会 事務局長

大本 秀一：NHK 制作局 第1制作センター 教育デジタル総括プロデューサー

田久保 勇：NHK 学園高等学校同窓会 会長